

論点メモ

(住民がつくるおしゃれなまち研究会)

平成 30 年 10 月

背景 大都市近郊の都市におけるまちづくりのあり方について

- ・ 量から質への充実を求める流れ
- ・ 住・商・遊のあるまちへ
- ・ 分かりやすい資源の少ない都市

論点1 おしゃれなまちづくり

- ・ 戸田市流「おしゃれ」の定義
 - おしゃれの具体的要素となる地域資源
 - 地域資源が魅力的に感じられる場所づくり
 - ライフスタイルの中に潜在する「おしゃれ」の感覚を引き出す
- ・ 魅力ある都市空間の創出
 - つながりを持たせた空間デザイン
 - 戸田市の強みを生かした空間づくり
 - 水辺空間と緑地空間を密接につなぐ工夫
- ・ 住み続けたいと感じるまちづくり
 - 将来の土地利用を見据えた景観計画の改定
 - 都市と関わりたいと考えているファミリー層の定住
 - 母親世代が働ける環境の構築
 - 休日に親子で参加できるイベント
 - 大人も子どもも「遊ぶ」ことができるまちづくり
- ・ 行ってみたいと感じる景観づくり
 - 市内3駅周辺の景観イメージの確立
 - 戸田市の地域的な景観の特徴に合わせたスポットづくり
- ・ 市の特色を生かしたまちづくりの検討

- 彩湖・道満グリーンパークや笹目川（水辺）
- ボートの聖地としての戸田漕艇場
- 戸田公園でのレガッタとイベントの併催
- 平坦な地形や荒川沿いを生かしたサイクリング
- 空き倉庫のリノベーション
- 三軒協定発祥の地
- 花火大会やマラソン大会などのイベント
- ・ 民間企業との連携

論点2 シビックプライドの醸成

- ・ 都市環境の整備によるイメージ形成
- ・ 市民がまちに愛着を持つための手法
 - まちを使いこなす市民を育てる
 - 自分自身に関係があると思わせる仕掛けづくり
 - コミュニケーション戦略の展開
 - 学生に対する社会参加の機会提供
- ・ 都市の情報発信力強化
 - みんなで共有する展開や見せ方の重要性
 - アートディレクター、デザイナーを意識したまちづくり
 - 情報の「受け手」を「送り手」に変える仕組み

論点3 まちづくりにおける住民参加

- ・ まちづくりにおける住民参加・合意形成の意義
- ・ 多様な主体間の利害調整のあり方
 - 国・都道府県との連携
 - それぞれの主体に即した役割分担
- ・ 住民主体のまちづくりに係るリソースの確保策

- 活動の中心となるキーマンや新しい人材の発見・育成
- 住民と行政の仲立ちを行う中間支援組織
- 大都市近郊都市における中間支援組織のあり方
- ・住民主体のまちづくりにおける行政の役割
 - 自然発生的に住民が参加する仕組み・仕掛けづくり
 - 住民がプレーヤーとして参加するためのプラットフォームづくり
 - 指定管理者の選定における住民の参加
 - おしゃれの発信者・生産者のサポート